

研究部会報告



●意思決定のための会計情報●

●第12回

日時：9月8日(土) 13:30~16:30 場所：慶応義塾大学ビジネススクール 出席者：15名

内容：(1) 不確定下の設備投資計画（慶応義塾大学：伏見多美雄）

高压ガスタンクの例をもとにして、寿命・消費量・物価上昇率が不確定な場合の優劣分岐分析についての検討が行なわれた。

(2) 節税の経済的効果（セイコー電子工業㈱：石井侃）

圧縮記帳、有税償却等の有効性についての経済性分析の考え方、およびパーソナル・コンピュータを利用した数値モデルの報告があった。

●待ち行列●

●第4回

日時：9月22日(土) 14:00~17:00 場所：東京工業大学(情報科学科会議室) 出席者：25名

テーマ、講師：

・Q4-1：航行管理方式について今後検討すべき事項(奥山育英・運輸省港湾研)―関門海峡の航路管制システムのシミュレーションに関する報告―

・Q4-2：直列型待ち行列のパーセントイル（岩瀬英佑・日本通信工業，大前義次・茨城大）―2段直列型待ち行列 $M/M/M1 \rightarrow M/1$ の系内時間のパーセントイルを近似的に求める簡易な計算方法―

・Q4-3：第3回ITC国際セミナーに参加して（宮沢政清・東京理科大）―59.6にモスクワで，“Fundamentals of Teletraffic Theory” というテーマのもとに開催された上記セミナーの報告―

●信頼性・安全性●

●第15回

日時：9月29日(土) 14:30~17:00 場所：東京工業大学工学部 出席者：14名

テーマ、講師：

「最近の航空機の疲労に関する研究」上山忠夫（宇宙開発事業団）

航空疲労に関する研究の最近の動向について報告された。近年導入された損傷許容設計の主要な内容と、それにとまない大幅に改訂されたMSG-3整備方式の概要、さらに補足検定要領について、理論的背景、実施例などを交えながら解説がなされた。

訂正とお詫び

前号(10月号)p.587 米原正尚氏の稿「業務機械化基本検討(企画設計)の手順化―検針管理業務への適用事例―」中、図9に、図8とまったく同じものが当方の手違いにより入ってしまいました。本来入るべきものは右に掲げた図です。米原氏および読者に対し深くお詫び申し上げます。

各営業所に、中央の大型電算機と接続した小型OCRを設置し

- (1) 検針結果を当日営業所で読み込ませイ。マーク洩れ、誤マーク検出口。差引使用電力量のチェックハ。上限値超過、下限値未達、分の検出を行ない、修正のうえクリーンデータを中央へ伝送する
- (2) 伝送された検針結果を、中央大型電算機で需要家情報ファイルと照合チェックし、その結果を営業所へ伝送する
- (3) 営業所では、照合チェック結果にもとづいて再調査を行ない、翌朝、修正データを伝送する

誤検針の内訳項目

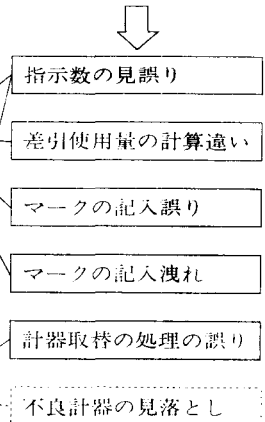


図9 誤検針対策案2

●● 経 営 ●● (研究グループ)

●第18回

日時：9月8日(土) 14:00~17:00 出席者：7名

場所：東京都勤労福祉会館 中央区新富1-13

テーマ：「古代中国春秋戦国時代の人陶朱公の経営術と現代」

講師：上田亀之助(コンサルタント)

陶朱公といえば、現代南方華僑の方々にとって、今でも富の象徴であるようです。2500年の昔、越の国の大將軍として宿敵である呉の国をほろぼした最大の功勞者です。その後間もなく商人となり巨富を築きました。その十二則と十二戒は20世紀の現在の産業経営にも役立つ、すこぶる合理的で積極的なものです。

●● D P ●● (研究グループ)

日時：9月18日(火) 18:00~20:00 場所：日科技連

出席者：4名

講師、テーマ：

- ・E. L. Lawler, "Efficient Implementation of Dynamic Programming Algorithms for sequencing Problems" の報告 (poset 上の Sequencing)
- ・「有限 poset の数え上げ」について

●● 数理計画法 ●●

●第4回

日時：9月29日(土) 14:00~17:00 場所：統計数理

研究所3階セミナー室 出席者：30名

テーマ：計算幾何学について

講師：今井 浩(東京大学工学部)

計算幾何学の最近の話題の中から、凸包問題, minmax 直線近似問題, 折れ線近似問題, Laguerre-Voronoi線図とn円の合併の面積を求める問題, 長方形の配置問題等について, 算法の手間, 実際的な問題への応用の観点から解説がなされた。

テーマ：不適切問題

講師：田辺國士(統計数理研究所)

従来のモデル化では、データの数がパラメータの数より少なく解けない問題(不適切問題)でも滑らかさの条件をハイパーパラメータとしてつけ加えることで数理計画問題として定式化し、ハイパーパラメータにベイズモデルを導入して、ABICを用いることで妥当な解が得られることが、肺のモデルを実例として示された。